

# 古民家の再生で地域の活性化

特定非営利活動法人 中之作プロジェクト



副代表理事 豊田 善幸さん  
とよだ よしゆき  
事務局スタッフ 豊田 千晴さん  
とよだ ちはる

福島といえば福島原発事故による避難者への支援が目にとまりますが、実は東日本大震災で津波の被害もありました。江戸時代には四国から塩を輸入し、会津へと運ぶ「塩の道」の出発点となった福島県沿岸南部のいわき市中之作地域。そこには豪商が多く、価値ある多数の古民家が建っていました。しかし、この大震災で津波被害を受け、多くが解体される事態になり、何とか古民家のすばらしさを後世に伝えたいと奔走したのが、NPO 法人中之作プロジェクトの豊田さんです。

築 200 年の古民家を譲り受け、その修復は、専門家だけではなく、専門家を講師とし、土壁づくりや塗装ワークショップなどを実施することで地域内外の人たちを巻き込んで修復しました。以降、建物や町並みの保存を通して地域コミュニティの活動拠点づくりに取り組んでいます。

## 多くの人の手による古民家再生

いわき市で設計事務所を営む傍ら古民家に関心を寄せていた現副代表理事の豊田善幸さんは、小名浜から5キロほど北にある中之作も被災し、古い建物が多い歴史ある港町の古き良き古民家が次々と壊され、町並みが失われていくのを目の当たりにしました。どうにかそれを食い止めたいと、解体される予定だったいわき市中之作漁港に近い場所にある築 200 年の古民家の所有者に保存の意向を伝えると、「このまま保存して地域のためになるなら」と理解を得て、豊田さんは古民家を譲り受けることにしました。

江戸時代に建てられたと伝えられるこの古民家は、被災地を支援する団体からの助成金や復興支援の補助金を活用し、土壁を塗ったり、床を塗装したり、襖を張り替えたりと、多くの人々の参加による修復セミナーを開催し、「清航館（せいこうかん）」として生まれ変わりました。2年半の修復作業に参加した人々は、千人を超えました。

## レンタル古民家として賑わいを復活

再生した古民家は、地域コミュニティをつなぐ拠点であり、イベントスペースとして活用されるなど、レンタル古民家「清航館」としてスタートしています。昔は商業港として栄えたという中之作ですが、この「清航館」は、江戸時代に塩問屋をしていた商家の建物でした。確かに中に入ると造りは素晴らしく、1階の正面には立派な神棚や隠し階段、2階には細工が施された漆塗りの床柱、貝細工の柱など豪商ぶりがうかがえます。

建物を保存できた後は、その活用と維持に悩むことが多いのが現実。この建物も部屋をレンタルすることで維持費を補い、その活用促進に向けて工夫をしています。

まず、この近くでちりめん細工のお裁縫教室を開いていた「ままや」に奥のスペースを週3～4日貸すことにしました。定期的に生徒さんが通ってくるほか、一般の市民向けに講座を開催するときもあるので、人の出入りがあります。その「ままや」は以前から、毎年2月初めに3日間「つるし雛飾りまつり」を開き、季節の催事として地域で親しまれていました。清航館に移って



▲清航館でコンサート



▲みんなで清航館の修復作業



2階床の間と床柱▶



▲1階立派な神棚

きて 2015 年から「ままや」と中之作プロジェクトとが共催を始めたことで、さらなる相乗効果がありました。

「ままや」で学んでいる生徒さんが一針一針丹精込めて作った色とりどりのつるし雛を清航館の館内や軒下に飾るほか、中の1日は中之作プロジェクト主催のお茶会も開催することからさらに人気を呼んでいます。

また、近隣のお宅にも呼び掛けたところ、年ごとにそれぞれのつるし雛を軒下に飾るところが増え、期間中は延べ 4000 人を超える人が訪れるようになりました。いわき市の観光サイトでの広報や、バスツアーの立ち寄り先に組み込まれるなど、市と協働の展開もしています。

## コミュニティの拠点として

清航館は、有料のレンタルスペースとして、基本的に個人や市民グループに貸し出しています。10:00～17:00 の日中は、一般料金が 8,000 円、会員は 5,000 円で1階の広間と見晴らしの良い2階の部屋が使えます。しかし、清航館を知ってもらうまでは利用が少ないと想定し、開所から2年間は、「使ってみるか事業部」と銘打って、120 名を超える会員の中の有志が企画を持ち寄り、写真、餅つき、保存食、陶芸、日本酒、時にはマグロの解体など、様々な特技を持った会員の協力でイベントを開催しました。

徐々に子供服のマーケットや音楽ライブ、ハンドメイドの小物販売など、グループで使ってもらえるようになって、1年を過ぎたあたりからは、維持費とトントンの収入となりました。それでもレンタル古民家として活用されているのは、会員の協力とそのネットワークが大きな支え手であることは変わりません。

そこで、2年ほど前から共通の趣味を持った会員の登録制による「部活動」をはじめました。現在のところ、自転車部、写真部、和の食を楽しむ女子部、釣り部、陶芸部、日本酒部、餅つき部、の7部です。特に餅つき部は、毎年恒例になっている「日本一長い餅つき大会」の活動です。機械に頼らず餅米の手植え、稲刈りも手作業、昔ながらの脱穀機で丁寧に脱穀、そして年末に清航館の釜戸で蒸して餅をつく、という長い時間をかけてする活動です。

## 地域住民との信頼関係が第一

同じいわき市でもこの地域と縁があったわけではなかった豊田さんは、当初、この家を保存のために購入する話をどのように進めたらよいか考えました。所有者はもちろんですが、より信頼してもらえるようにこの地域の区長さんにも協力してもらえよう話に行ったといいます。そのことが功を奏し、80歳を超える所有者の女性は、「まちのためになるなら、そしてほかの人も中に入れるのなら」と安価な金額で譲り受けました。

以降、この地域のまちづくり協議会のメンバーになり、近隣にも日頃声がけをしてきた結果、最近では「いろいろやっているね～行きたいと思ってるけども時間が無くて。がんばってね」と声をかけられるようになりました。最初は代表理事だった豊田さんですが、清航館に棟続きで自分の設計事務所兼自宅を構えたことから、誤解を招かない様にと昨年、地元の区長を代表に立て、副代表に変更したと事務局スタッフであり妻の千晴さんが話してくれました。

中之作プロジェクトでは、古い港町の風景を次の世代に伝えるために、この町にふさわしい風景を形づくる建物を増やしたいと考え、港から細い路地を登ったところの古い空き家を借り、修復を始めています。今回もプロから学ぶDIY教室の「サッシ取り付け教室」「外壁張り教室」「断熱材施行教室」「ペンキ塗り教室」など、参加型修復工事を始めます。

港が見渡せる眺めいい場所であることから「月見亭」と呼び、今年の秋にはカフェもあるもう一つのコミュニティスペースとなる予定です。

## 特定非営利活動法人 中之作プロジェクト

<問合せ先>  
〒970-0313 福島県いわき市中之作字川岸 10  
TEL▶0246-55-8177 FAX▶0246-55-8178  
E-mail▶nakanosakuproject@gmail.com  
URL▶http://nakanosaku.xsrv.jp